

人生は、長いマラソンレースに例えられることがよくあります。
調子のよい時やよくない時がありますが、よくない時にその人の本性が表れます。

秦の始皇帝時代に完成した「呂氏春秋」という書物に「六驗」という人物の鑑定法があげられています。6つの中でも、私が「特にこれ」と思った一文。

「之を苦しめしめて以て其の志を驗す」

苦しい時に、その人の志操（自分の主義や主張を固く守って変えない心）の固さを驗すことができる。どんなに辛くても、本来の志を失ってはならない、という意味です。

人の本質は、逆境のときにこそ真価が問われるものです。

逆風や苦戦が、自らを高めてくれるチャンスだと思い、腐ることなく、前を向いてコツコツと歩んで行きたい。（もちろん、多くの人々の声に耳を傾けながら）